

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高等学校における演劇等ワークショップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第二係 電話番号：058-272-1111(内8669)

E-mail：c17782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,774 千円 (前年度予算額：17,968 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,968	8,984	0	0	0	0	0	0	8,984
要求額	16,774	8,387	0	0	0	0	0	0	8,387
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

高等学校においては、コミュニケーションを図ることが苦手なことで、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。県教育委員会は関係機関との連携協力を図り、プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、学校生活での行きづまりを感じている生徒や日本語能力が十分でない外国人生徒等を多く抱える県立高等学校において、演劇表現等のワークショップを実施することにより、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることを目的とする。

(2) 事業内容

- ・プロの演出家や俳優等を講師として招いて行う演劇表現等のワークショップを通じて、生徒に対しディスカッション、創作、表現等の活動を行い、思考力・判断力・表現力や社会性等の人間関係形成能力の育成を図る。
- ・相手役とのコミュニケーション等を通して、仲間とのつながりや自らの居場所を発見し、安心して学校生活を送ることができる教育環境の実現を図る。
- ・高等学校における演劇等ワークショップ指定予定校 13校

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	12,132	講師謝金
旅費	4,609	講師旅費
会議費	33	会議費
合計	16,774	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力をはぐくむ教育の推進

目標13 豊かな人間性を育む教育の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る演劇ワークショップを入学時の初期適応段階で実施することにより、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒等に対して支援を行い、人間関係形成能力を育成し、学校生活への適応力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

人間関係形成能力を図り、学校への適応力を高める事業であり、指標の設定はなじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>山県高等学校、羽島高等学校、揖斐高等学校、不破高等学校、東濃高等学校、恵那南高等学校、土岐紅陵高等学校、坂下高等学校、関有知高等学校、郡上北高等学校、飛騨高山高等学校（山田キャンパス、定時制）、飛騨神岡高等学校、華陽フロンティア高等学校（定時制）の計13校において、全1年生を対象にワークショップを実施した。</p> <p>1年生の初期適応段階において、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることができた。</p>
令和3年度	<p>山県高等学校、羽島高等学校、揖斐高等学校、不破高等学校、東濃高等学校、恵那南高等学校、土岐紅陵高等学校、坂下高等学校、関有知高等学校、郡上北高等学校、飛騨高山高等学校（山田キャンパス、定時制）、飛騨神岡高等学校、華陽フロンティア高等学校（定時制）の計13校において、全1年生を対象にワークショップを実施した。</p> <p>1年生の初期適応段階において、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図ることができた。</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	平成30年度から実施している6校の、30日以上欠席した不登校者の割合は、平成30年度の4.3から令和3年度の2.9ポイントに下がるなど、一定の成果が見られる。受講生徒に対するアンケート結果からも、約9割の生徒が「多様なコミュニケーションスキルの習得」や「他者からの受容感」に高い満足度を示している。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	対象校13校の1年生に対してワークショップを実施し、コミュニケーション能力や自己表現力向上を図ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	対象校を精査し、現状での必要性が高い高校に対してワークショップを実施している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒への支援については、当該13校のみならず県内の多くの高等学校が抱える課題である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和4年度実施の県立高等学校13校を中心に対象校を精査し、継続実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】